



報告集会で思いを語る綾さんのお母さん

新卒看護師過労死労災不支給処分取消裁判

労災認定へ

奪われた新卒看護師のいのち
国が不支給決定の誤り認める

労災不支給処分取消裁判は、10月17日に国側が自庁取消をし、労災として認定されることになりました。支援する会は、10月26日に労災認定報告集会を札幌市内で開催し、89人が参加しました。

なぜこのような悲しい事件が起きたのか

2012年12月、新卒看護師の杉本綾さん(当時23歳)が自らのいのちを絶つたのは、あこがれていた病院の急性期病棟に勤務して、わずか8カ月後のことでした。札幌市内有数の公的病院でなぜ新卒看護師が自死しなければならなかったのでしょうか。浮かび

上がってきたのは、経済的利益と効率を最優先にしたシステムに職員を従わせる病院づくりの弊害です。

綾さんは重症患者が次々に入院する過酷な病棟で、新卒看護師の能力と経験を超える業務の遂行を求められ、うつ病を発症し、苦悩の果てに自死されました。4月の勤務開始から、1時間前に出勤して記録を確認しておくようにと指示されたため、7時過ぎには出勤し、退勤は20時を過ぎ、22時、23時になることもありました。病院のタイムカードによれば、時間外労働は

シヤドワーク、休憩時間の実労働等が労働時間に算入

労災認定報告集会で、原告弁護団長の倉本弁護士は「綾さんがなぜ自分でのいのちを絶つような決断をしなければならなかったのかという疑問から

始めた。賃金が支払われていない労働時間の評価が問題となった裁判。労災が認定されることになったが、認定基準の中で十分に拾われきれていないのは、新人の苦しさ、戦場のような現場で働く看護師という職種の負荷、残業代が1円も支払われていなかったというストレス。労災認定がなされても、それすべての区切りとは考えていない。

綾さんのお母さんは「今も毎日涙が出る。生きているのが苦しかった。支援してくれなみなさんと、このたたかいがあったから必死に生きてくることができた。医療現場の過酷さを訴えなければと思っ

てやってきた」と語りました。集会には日本医労連から森田しのぶ執行委員長はじめ、温井書記次長、松田中執が参加。森田委員長は2008年に労災認定された村上優子さんの事件の経験も踏まえ、「看護師は50、60時間の残業でも身体はボロボロ。役割が全うできない過酷な働き方を看護師の大幅増員で変えたい」と述べました。綾さんが所属していたバドミントンサークルの友人は「就職後、明らかに

判断を待たずに行政庁が自らの誤りを認めて処分を取り消すこと)をした経過について「労災申請時点では月100時間以上の時間外労働がなく、労災認定の基準として足りていないとされた。しかし、裁判をすすめる中で、持ち帰りの研修レポート作成等のシヤドワークや昼休みに実働した時間が労働時間として加わった。7月に夜勤開始とインシデント発生という2つの心理

的負荷があり、その前後1ヶ月間の時間外労働がそれぞれ111時間、102時間となり、労災認定の基準に当てはまったため、裁判を維持できないと国が判断した」と説明しました。また、「綾さんのお母さんが諦めていたらなかった結果。労災認定に時間がかかったが、この結果に追い込む支援の力があつた。これを力に過労死・過労自死のない職場にしよう」と訴えました。

全国の支援が力に

閉会挨拶で、支援する会の佐藤事務局長が「お母さんの強い思いと、弁護団のシヤドワークは労働時間という追及、みなさんの支援、そしてマスコミの力が労災認定に大きく影響した。UHB(北海道文化放送)が綾さんの事件について放映すると、次々と応がツイートされ、書き込み件数は3000件を超えた。医療・介護の精神疾患の労災認定率は他産業より低い。現場の実態をもっと広く知らせよう」と話しました。

極めて異例の原告の口頭弁論が11月12日に行われます。

脈路

数年ぶりに切り初日に映画を観ることが出来た。「華氏19」(マイケル・ムーア監督)だ。前評判も高

かったが、昔の映画評でも書かれていたように、「笑わせる」場面は少なく、ものすごく真面目に「トランプ政権が生み出されたわけ」を描いている▼ムーア監督は、トランプ大統領誕生を予測した数少ない知識人だった。本来、一人一票の選挙制度であれば、300万票も少ないトランプが大統領になることはなかったのに、州毎の代議員を総取りする制度のおかげで、思わぬ大逆転を許す。棄権した有権者はおよそ1億人。半数近くのアメリカ国民が政治に不信感を抱いていた▼その理由はいくつもあるが、前のオバマ大統領が行ったことも大きい。ミシガン州フリンツでの鉛汚染の水道水をめぐる対応は酷すぎた。バーニー・サンダースを求める若い人々の声をかき消した民主党首脳部の行動は、民主党への期待を打ち砕いた▼しかし、「政治への失望」の一方、フリンツの住民運動、教員のストライキ、「銃規制」をめぐる高校生の大規模デモ(小中学生も!)など、民衆の民主主義を求める力強いたたかきも消えてはいない。そして運動にはSNSが活躍している▼詳細は映画館に足を運んで欲しいが、翻って日本では、余りにも酷い政治に対して、民衆は立ち上がっているか。有効なたたかきを作りえているだろうか。



養あずみの里裁判の早期解決を

長野県安曇野市にある特養あずみの里で働いていた准看護師の山口さんは2014年12月「業務上過失致死」で起訴されました。山口さんは死亡したKさんの背後で別の入所者のおやつを介助していた。

ドーナツを詰まらせたの窒息なのか。いずれも検証で山口さんに過失がないのは明らかです。加えて検察は2度にわたる「訴因変更」をおこなっていました。裁判官も「誠実な権利行使」といい難い面がある」と検察の態度を非難しました。

この裁判がもし有罪になれば、ただでさえ少ない人数で日々の介護業務に従事し、入所者の安全を守っている介護職員たちは「自分も起訴されたら」と不安になり、「介護」に対して萎縮してしまうことが危惧されます。

全国医師ユニオン(代表:植山直人医師)を中心に民医連、保団連、医労連で構成するドクターズ・デモンストレーション実行委員会は10月27日、東京都内でシンポジウムを開催し約70人が参加しました。

ドクターズ・デモンストレーション 医師の「働き方改革」でシンポジウム

全国医師ユニオンの植山代表は、勤務医実態調査の結果を紹介しながら、過労死・過労自死が止まらない過酷な実態を報告。まず必要なのは医師の増員による医師不足の解消と訴えました。自治体病院協原副会長は、医師の働き方改革は「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の2つを両立させることが重要と、全日本病院協の美原副会長も会員アンケートで約半数が「医師増員なしに救急体制が維持できない」と回答したことを紹介、医師増員を求める声が続きました。



改憲NO! 国会前に18000人

1946年の憲法公布から72年。11月3日、改憲はぜったい許さない、止めよう改憲発議、安倍内閣退陣のうねりをつくろうと全国各地で集会やデモなど多彩に取り組みされました。写真は国会前。

裁判は、年内に結審、年度内には判決が出される見込みで進行しています。大詰めを迎えています。この間、裁判傍聴支援などが取り組まれてきました。山口さんの無罪を求める署名は、全国で集められ、約40万筆に達しました。

第20回全国交流集会

一般病院部会

学習・交流 ふかめる



「どう行動すれば良いのかを考えて 一緒に声をあげ続けてほしい」 本田 宏

10月20日から21日の2日間、福岡県にあるホテルテトラ北九州を会場に「第20回一般病院(民間病院)労組全国交流集会」を開催し、11県17単組31人が参加しました。



特別講演は、本田宏さん(NPO法人医療制度研究会副理事長)にお願いました。テーマは「明治維新150年、社会保障再生に労組が期待される理由」。

4組合から 特別報告

特別報告では、篠田病院労組(山形)から粘り強い交渉の結果、非正規(調理師)から正規職員につながったこと

と。津山第一労組(岡山)は、現場の実態を把握するために退勤調査や、楽しめる企画を通して、組合加入や、交渉の成果に繋がっていることを紹介し「組合ががんばってくれているから」と言われることが、励みになっている。引き続き要求改善に向けてがんばりたいと決意が述べられました。佐藤病院労組(大分)は、事務折衝方式を、組合員の意見や要望を基に意識統一された要求書作りに変更し、18秋闘に臨むとし、「楽しくなければ組合ではない」をモットーに、がんばる決意を報告。厚生荘病院労組(東京)からは、「学習」を続けることが、交渉に活かせることにつながるとし、大変なこともあるが、一歩ずつがんばると発言しました。

10・11集会実行委員会 厚労副大臣に要請

「憲法・いのち・社会保障 まもる10・11国民集会」実行委員会は、10月17日、厚生省を訪れ、大口善徳厚生労働副大臣と面談、集会で確認されたアピールと「医師・看護師・介護職員・保育士などを大幅に増員し処遇改善をはかること」をはじめとする4項目の要請事項を手渡しました。

しのが委員長と全国保団連、全日本民医連、全大教、自治労連の代表が参加。副大臣との面談に力を貸していただいた日本共産党の高橋千鶴子衆議院議員も同席しました。

な状況を伝え、各団体の代表も要請事項にかかわってそれぞれ発言しました。副大臣は「介護職員・保育士増員と処遇改善については、消費税引き上げと新経済政策パッケージで検討。介護保険の要介護1・2の生活援助保険外し、利用者負担増については4月からの実施状況を見ていきたい」と応じました。





116人が集まった「民医連生協部会」の全国交流集会。右写真は講演する中澤秀一先生

民医連生協部会 全国交流集会2018

すべての単組が 要求提出・スト配置を



集会開催にあたって西銘秀実部会長があいさつし、「沖縄知事選の勝利を力にして安倍政権の改憲をストップしよう」と呼びかけました。記念講演は、静岡

中澤先生を講師に最賃を学ぶ 賃金の「最低」の意味を考えよう

10月20日～21日、富山県・金太郎温泉で、民医連・生協労組全国交流集会を開催しました。集会には35県医労連・55単組から116名が参加し、おおいに学習・交流を深めました。

県立大学の中澤秀一先生が「全国一律最賃制の実現と私たちの賃金」について話されました。

中澤先生は「最低生計費の最低限度が、健康で文化的のさらに下で、これ以上切詰められない限界という捉え方が問題。最賃は全国一律で暮らせる水準にする必要があり、1500円以上は地方に好循環を生むためにも大切」と訴えました。

交流集会への問題提起では、日本医労連・温井伸二書記次長が「労働組合らしくたたかうことが大切」「すべての単組で要求を出しストを配置して秋闘、春闘をたたかおう」と呼びかけました。

経験・教訓 活発に交流

続いて北海道勤医労の伊藤賢太書記次長から「産別統一闘争への結集をどう強めてきたか」として特別報告が行われ、ベアを獲得した春闘や共済を活用した非正規職員の組織化について、具体的な取り組みの報告が行われました。

集会は、各単組がとりくむ課題や教訓をみんなで共有しようという全体会です。討論では、産別ぐるみで

大学部会 全国交流集会



課題は 組合員の拡大 次世代への継承

日本医労連大学部会は、10月20日、岩手県つなぎ温泉で18秋の全国交流集会を開催し、11組合から40人が参加しました。集会は佐々木部会長（岩手医大教組）の主催者あいさつでスタート。いの健全国センターの岡村やよいさんが「豊かな生活から見る働き方」をテーマに講演しました。岡村さんは、労働安全衛生活動の課題で自らの体験談を基に「労働者が元気に家を出て、元気のまま帰宅させるのは事業者の責任であり、それを見届けるのが労働組合の役割」と強調。国内や韓国における取組みについて多くの事例も紹介

していただきました。特別報告として、新しく部会長になった池田タツ子さん（東京医大労組）が組織強化・拡大の取り組みについて報告。全体討論では、事前に出版されたレポートをもとに各大学の現状、職場の状況、この間の取り組みなど活発な意見交換を行いました。「今をみずして青年部の活動を広げていく、次世代へ引き継ぐためにどうすべきか考えるべき」「組合を存続させる意味はもちろん、職場を存続させるためにも組織拡大は大きな課題」など多くの感想が寄せられました。



て、日本医労連の歴史、民医連における労働組合の役割などを学びました。



特別報告は、北海道勤医労の伊藤賢太さん

拡散しよう 産別最賃の新設へ ネット署名スタート

看護師・介護士の賃上げはこちから
https://chn.ge/2zOny4d

看護師、介護職の特定最賃の実現には、国民の中に、深刻な人手不足の実態と過酷な仕事の状況、専門職でありながら他産業に比べても低い賃金実態にあることを大いに知らせ、改善の世論を広げることが大切です。国民世論をつくり、広げるため、10月からネット署名もスタートしました。ネット署名開始から約1カ月がたち、「人の生活を支える立場、まずは支える側の生活や精神が安定しないと...」「人材不足の大きな要因は、仕事量に見合わない低賃金です。」など賛同の声がたっさん寄せられています。ツイッター・フェイスブック・ブログなどで大いに拡散しまっよう。URL: <https://chn.ge/2zOny4d>



はたらく女性の中央集会 語り合って元気！

10月27・28日、「第63回はたらく女性の中央集会」が開催されました。今年の会場は広島。1日目の全体会には650人が参加しました。集会スローガンは「壊すな！憲法9条 核兵器廃絶！ヒロシマから世界へ実現しよう！ジェンダー平等・人間らしい働きかたひろげよう！いのち・くらし・平和もめる女性の共同

を」でした。

アーサー・ヒナードさん詩人が「ヒロシマから日本の今を語る」をテーマに記念講演。「被爆地ヒロシマ」の企画として、被爆ピアノ演奏と切明千枝子さん（広島市原爆者の会理事）が、自身の経験を紹介した上で、平和を守る努力をしようと訴えました。争議紹介では、医労連から「あずみの里裁判」署名の協力をお願いしました。集会後にパレードも実施。2日目は、働き方や平和、教育など6つの分科会と見学分科会が開催されました。

お知らせ

日本医労連2019春闘討論集会

- 2018年11月29日（木）13：30～11月30日（金）正午
- 湯沢ニューオータニ（〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町330）
- 参加費 12,000円（1泊2食）

19春闘に向けた学習と「春闘構想」に基づく討論をおこないます。「争議対策会議」も同時に開催。

介護

アクション月間

私たちの声で変えよう

11月は「介護をよくするアクション月間」です。全国各地で世論を巻き込みながら、運動を広げましょう。

介護サービスは年々削減され、利用者負担は引き上げられ、介護離職も後をたちません。この10月からは、生活援助のケアプランの届け出制度が実施され、必要な時に必要な介護が受けられない事態がおこっています。

11月11日は「いい介護の日」

日本医労連では、11月11日の「いい介護の日」の週を、「アクションウィーク」と位置

私たち自身が声を上げて、介護をよくしよう

介護の仕事は好きだけど、低賃金と激務によって介護現場を去る人が後をたちません。

介護は専門職。ゆとりと誠意をもって利用者さんと関わりたい、もっと対話し、良い介護をしたいという思いを、



医労連 共済トーク Voice



伊東市民病院労組書記次長
木下建太郎

当組合では新人歓迎会で共済も同時に加入していただきます。

毎年、新歓では組合加入率、共済加入率どちらも約90%以上を達成しています。新歓参加率100%を目指し、声かけや各部署に「新歓お知らせシール」を貼ったお菓子を配布します。当日はお菓子とジュース、着ぐるみ、ディズニーのBGMで約15分で終わらせます。雰囲気優先、感覚で加入してもらいます。(笑)「これ美味しいから食べてみな? みんな食べてるよ」の感じです。ディズニー無料バスツアーなどの特典もPRします。

新歓は楽しく易しく雰囲気

組合加入届けには共済加入の有無も載せているので「インフルエンザで休んでも休業保障がある、他にはありえない助け合いの保険みたいなものだよ。3ヶ月間無料(組合負担)だから加入しといた方がいいよ。」という感じで詳しい説明はしません。

加入届けの回収後に、組合の詳しい説明を少しだけします。タプーは、フレッシュな新人さんを怖がらせるような話はしないことです。前向きかつ働く仲間を手を取り合って頑張ろう! という姿勢を重要にしています。組合・共済の重要性は後々わかるように取り組んでいます。

また、新歓以外で私が共済の説明をする場合、最低7型医療MAXを伝える以外に必ず「自動車通勤か」を質問します。該当の場合は、保障額の大きさと事故にあう確率が高いことを説明し、「たった400円の追加でこの保障!」と、自動車通勤の方には必ず交通MAXをお勧めします!

組合加入率増加の武器でもあり、防具でもある共済の魅力を伝え、さらなる加入率と平均単価のUPを目指し取り組んでいきます。目指せ共済加入率80%!!

吹き出しボード

介護職員
ふやして!

1人夜勤
なくせ!

新・介護統一署名スタート

10月より全労連・中央社保協・全日本民医連の3者統一署名「介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を求める請願署名」が始まっています。

個人還元金はありません 交付金送金は11月9日・16日

日本医労連は第68回定期大会において、医労連共済第29期決算の結果、第29期の個人還元金を実施しないことを決定しました。医労連共済は、給付に充当する枠(掛金総額の70%)で剰余が出た場合、個人還元金を実施しています。第29期の個人共済の給付は、「生命」は例年と比較して大幅に少なかったものの、「医療」の給付が前期に引き続いて大幅に超過し、給付の枠を超過しました。剰余が出ないのは、よりよい助け合いの制

医労連共済だより

度にもつた議論も続け、給付の見直しに取り組んできた結果でもあります。給付を受けた加入者から、多くの感謝のお手紙も寄せられています。個人還元金を実施できず恐縮ですが、医労連共済を存続・発展させるためにご理解をお願いいたします。

なお、加盟組合(全国組合・県医労連、単組・支部への交付金は事業費用として予算化していますので実施します。振込日は個人共済交付金11月16日、自動車共済交付金11月9日です。

医療の眼

医学部入試の問題発覚

東京医科大学の入試不正問題では、官僚の子弟の不正合格に止まらず、入試で得点調整が行なわれ、女子学生や多浪生を不利に扱ったり、同窓生の子弟を優先して合格させていたことが発覚し、世間の厳しい目がむけられました。

この問題では、女子学生や多浪生への減点について、厳しい批判がある一方で、医師労働の実態から擁護する意見もあり、問題の根深さを感じさせられました。

突破できない35%の壁

医学部合格者に占める女子学生の割合は、70年代半ばの15%から右肩上がり、90年代前半の30・35%をピークに、2000年代半ばから低下傾向も見られます。男女で受験者数の違いはあると言え、男女の合格率の差が指摘されており、長年にわたって調整されてきたことは明らかです。

現在、OECD加盟国の女性医師比率は単純平均で44%です。北欧など女性の社会進出が進んでいる国々では50%を超え、OECD加盟国の大半が40%を超えています。その中で日本は最低レベルの21%です。医師労働の厳しさなどを理由に、女子学生を3割程度に調整しているようでは、最

低レベルを続けることになりません。背景にある医師の過重労働や男女差別が根深い社会を変えていくことが急務です。

現役志向の背景に補助金

多浪生への減点について東京医科大学は「多浪生は伸びない」としました。高校3年間で医学部合格レベルに達した現役生のほうが、さらに数年かかった多浪生より、医師国家試験をクリアする期待値が高いと

医師の働き方の改善と地域医療の充実を

様ですが、補助金目当ての現役優先では、資質を持った学生の選抜に疑問が残ります。補助金の在り方にも検討が必要と考えます。

医学部定員の削減ストップ

日本医労連は、8月5日に書記長談話を発出して、今回の問題が、日本社会の男女差別の実態(男女平等ランキングで144ヶ国中114位)が表れていることや、医師不足による過密労働が反映していると指摘しました。そのうえで、男女差別をなくし、適切な医師の増員と労働条件の改善を政府に強く求めました。

しかし政府は、こうした問題を解決しようとせず、「骨太方針2018」の中で、医師労働を最大週80時間とする医師需給推計をもとに、2022年以降の医学部定員削減を検討すると打ち出しました。

OECD加盟国の中でも医師不足が顕著で、総務省「就業構造基本調査」でも、医師の41%が週労働60時間を超え、過労死も後を絶たない状況です。入試にも影響する医師不足や過重労働をなくすと同時に、男女差別の垣根をなくし、女性医師が安心して働き続けられるような働き方を追求することが大切です。これは多様な地域の医療要求を実現するためにも不可欠です。

政府の医学部定員削減をストップさせて、医師の働き方の改善と地域医療の充実を進めていきたいと思います。

考えているようです。そして、こうした現役生にこだわる背景には、大学の医師国家試験の合格率が70%を切り、長年にわたって調整されてきたことは明らかです。

現在、OECD加盟国の女性医師比率は単純平均で44%です。北欧など女性の社会進出が進んでいる国々では50%を超え、OECD加盟国の大半が40%を超えています。その中で日本は最低レベルの21%です。医師労働の厳しさなどを理由に、女子学生を3割程度に調整しているようでは、最

18年度入試から東京大学も「ふさわしい資質を持った学生を、学力試験の成績のみでなく多面的・総合的に選抜します」として面接を新設しました。他大学でも面接を実施する理由は同